

## ■定義など■『売り手は誰か-対価を得るのは誰か』

「当事者2は『売り手』ですか」との質問を頂くことがあります。当事者2は対象会社(ターゲット)であり、売り手(セラー)として対価を得るのは当事者2の株主である株取得先となります。ただし、第三者割当増資に限り、当事者2が株取得先となります。なお、株取得先には売り手として開示された株主が記載されています。以下に具体例を挙げています。

### ◇当事者2の株主が売り手(セラー)で対価を得る

#### <M&Aデータ>

▼当事者1 FRA/FRA/輸送用機器// フォルシア(買付目的会社:インパックスI&I)	▼対価
▲当事者2 JPN/埼玉県/電機/東証1部/6796 クラリオ	▼株取得先 日立製作所

OUT-IN	買収	日付	金額	出資比率	有効日
(TOB+少数株主排除<株式等売渡請求ほか>)		2018/10/26	141,045百万円	0→100	2019/03/07

ユーロアウトパリ市場で自動車部品大手のフォルシアは、日立製作所の子会社でカーナビゲーションシステムなどを手がけるクラリオを買収する。完全子会社化を目指す。国内外の競争当局の手続きが完了後、全額出資で設立した仏インパックスI&Iを通じて2019年1月をめどにTOBを実施する。クラリオの取締役会は賛同している。買付予定数は5636万4034株(買付等後の所有割合100%)。375万7600株(同66.67%)を下限に買い付ける。議決権の3分の2超に相当する。上限は設けない。日立は保有する63.8%全てを応募する。買付価格は1株2500円。過去3ヵ月間の終値の平均1673円に対し、49.43%のプレミアムを付ける。金額は最大1409億1000万円。買付期間は20営業日。90%以上取得した場合は株式等売渡請求を実施し、90%未満の場合には株式併合を行う。クラリオは東証1部上場廃止となる。同社はクラウド技術、統合HMI(ヒューマンマシンインターフェイス)技術、クラウド・エッジコンピューティング技術、カメラ・センシング技術を軸とした自動運転技術の4つのIT技術を統合したSmart Cockpit構想を掲げ、従来の「車載情報機器メーカー」からクルマと情報を「つなげる」付加価値を提供する「車両情報システムソリューションプロバイダー」へと事業変革を図っている。フォルシアは車載IT分野の外資系の子会社でカーナビゲーション・I&Iなどを買収し、2016年12月に次世代車載情報通信システム(C-ITS)市場に参入した。フォルシアグループの既存事業を含むグローバルのcockpitインテグレーション事業を統合し、内装、シート、カーナビリティという3つのビジネスグループに続く第4のビジネスグループを日本を本拠地として創出する。日立とクラリオは自動運転など注力分野の成長に向けて協力関係を継続する。日立は制御技術に強みを持つ自動運転などモビリティ分野を含む社会インフラ事業の強化を加速させる。★データ追加 2019/01/30 インパックスI&Iは、TOBを開始する。買付予定数は5636万1277株(買付等後の所有割合100%)。下限は375万4200株(同66.67%)。買付期間は1月30日-2月28日までの21営業日。金額は最大約1409億300万円。買付手数料などを含めた金額総額は約1410億4500万円。有効日に2019年3月7日を追加。金額を1409億1000万円から約1410億4500万円に修正。

### ◇第三者割当増資(当事者2が株取得先になる)

#### <M&Aデータ>

▼当事者1 JPN/東京都/不動産/特上場など/ H.I.S.ホテルディングス[イチ・アイ・エス(HIS)]	▼対価
▲当事者2 TPE/TPE/不動産/特上場// グリーンワールドホテルズ(GWH)	▼株取得先 グリーンワールドホテルズ(GWH)

IN-OUT	買収	日付	金額	出資比率	有効日
		2017/03/22	2,000百万円	33.32→51	2017/05/23

イチ・アイ・エス(HIS)は、全額出資子会社のH.I.S.ホテルディングス(東京)を通じて、台湾の観光大手のグリーンワールドホテルズ(GWH)を5月下旬に買収する。約20億円の第三者割当増資を引き受け、出資比率を33.32%から51%に高める。同社は売上高約28億1000万円(約7億6300万台湾ドル)。台湾で最大規模のホテル軒数を有する。HISはGWHを活用した「変なホテル」を含む国内外のホテル運営でグループが培った運営やマーケティングのノウハウを取り入れることで、収益の拡大を図る。中国語圏へ進出の第一歩と位置付け、台湾だけではなく上海などへの進出も展開していく。★データ追加 2017/05/23 有効日に2017年5月23日を追加。

### ◇当事者2の株主が売り手(セラー)で、当事者2が第三者割当を実施し、両者が対価を得る

#### <M&Aデータ>

▼当事者1 JPN/東京都/IT/情報/特上場/3754 Iサイト	▼対価
▲当事者2 JPN/東京都/証券/未上場など/ アーナ・フィックス(日本ラッド 子会社)	▼株取得先 日本ラッド、アーナ・フィックス

IN-IN	買収	日付	金額	出資比率	有効日
		2017/09/27	159百万円	0→88.9	2017/09/28

Iサイトは、日本ラッドの子会社で外国為替証拠金取引業のアーナ・フィックス(東京)を9月28日付で買収する。日本ラッドから約1億2900万円で株式を取得するほか、約2900万円の第三者割当増資を引き受ける。総額約1億5900万円で88.9%の株式を取得する。アーナ・フィックスは売上高約400万円。Iサイトはグループのサービス領域の拡大と新たなユーザーの囲い込み、グループの収益力強化を目指す。日本ラッドは2010年にアーナ・フィックスを買収した。注力する事業領域へ経営資源の集中を図る。引き続き同社に対してはFinTech分野を含むクラウドサービスのサポートを行う。★データ追加 2017/11/10 アーナ・フィックスは、10月26日付で社名を「Iサイト」に変更した。新会社名に「Iサイト」を追加。Iサイトが11月10日付で提出した第2四半期報告書により確認。